

2023 ズバリ! 的中



世界史

早稲田大学

設問1と設問6の同時代のヨーロッパ世界の出来事に関する
正誤判定問題が的中

入試問題

2月17日実施 文学部 一般
〔Ⅳ〕 設問1、設問6

河合塾

早慶レベル模試
13頁 3 設問1、空欄(G)

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、設問1～8に答えなさい。

中近世ヨーロッパの歴史は教皇権の隆衰とともに推移した。使徒ペテロを初代司教とするローマ司教は、初期中世になると教皇を名乗り、キリスト教世界での首位権を主張した。11世紀半ばに教皇は、教会改革を主導したが、その結果、多くの改革修道院が生まれる。11世紀末にブルゴーニュ地方のBに創建された修道院はその一つである。教会改革からはまた、托鉢修道会も生まれ、説教を通じ民衆教化にあたった。13世紀前半に托鉢修道会士は、教皇の命でモンゴル帝国の首都Cにまで派遣された。

しかし、13世紀末から14世紀初めに、教皇権はフランス王権との抗争に敗れ、教皇の居所もローマからアヴィニョンに移転した。さらに、百年戦争が始まると、14世紀後半のオクスフォード大学では教皇権を批判する神学者も現れ、教皇の權威は次第に失墜した。その後、グーテンベルクによる活版印刷術の発明により、書物の大量印刷が可能になると、教皇権を批判する神学者の書物が流布し、宗教改革を引き起こした。これに対し、教皇はプロテスタント関係の書物の禁書目録を出し思想統制をおこなったが、実際は、カトリック側も多くの宗教書などの書物の刊行を手掛けている。とくに、ヨーロッパ外での布教を担ったイエズス会士は、中国では現地の木版印刷を用い、宗教書だけでなく自然科学の書物も漢訳して刊行し、西洋文明の東アジアへの伝達に大きく貢献した。

設問1 下線部Aの内容に関連して、6～11世紀におけるキリスト教世界の動きについて、次のア～エの中から、誤りを含むものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ア 教皇レオ3世がカールの皇帝戴冠をおこない、カトリック教会は正教会と異なる道を歩むようになった。
- イ 教皇権を隆盛させたグレゴリウス1世は、イングランドに宣教師を派遣した。
- ウ 小ピピンが教皇領の寄進をおこなった見返りに、教皇は小ピピンの王位を認めた。
- エ ハンガリーでは、イシュトヴァーン1世が教皇から初代の王位を認められた。

設問2 空欄Bに入る地名を記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

設問3 空欄Cに入る地名を記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

設問4 下線部Dに関連して、次のア～エの中から、古い方から三番目に当たるものを選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ア 戦費の重荷が一つのきっかけとなり、フランス北部でジャックリーの乱が起こった。
- イ 黒死病がヨーロッパで大流行し、数年で人口の約3分の1が失われた。
- ウ イギリス軍がクレシーの戦いでフランス軍に勝利した。
- エ ジャンヌ＝ダルクが指揮したフランス軍がオルレアンの戦いでイギリス軍に勝利した。

設問5 下線部Eの神学者に関連する以下の文章のうち、次のア～エの中から、もっとも適切なものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ア 聖書をヘブライ語とアラビア語の原典から初めて英語に訳した。
- イ ワット＝タイラーの乱に参加し、「アダムが耕しイヴが紡いだとき、誰が貴族だったのか」と民衆に説教した。
- ウ コンスタンツ公会議に召集され、異端として次期に処せられた。
- エ 彼が在籍したオクスフォード大学はイギリス最大の大学である。

設問6 下線部Fに関連する以下の文章のうち、次のア～エの中から、もっとも適切なものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ア ルターの「九十五カ条の論綱」は、グーテンベルクにより大量印刷された。
- イ グーテンベルクはロンドンで冶金技術を学び、金属活字を考案した。
- ウ グーテンベルクは葡萄搾り機を改造して、プレス式の印刷機を考案した。
- エ グーテンベルクの『四十二行聖書』は大量印刷され、民衆が読む標準的な聖書となった。

3 以下の文章を読み、空欄(A)～(G)に最も適切な語句やアラビア数字(算用数字)を記入し、設問1～8に答えなさい。

1947年、ヨルダン川西岸のクムラン洞窟で巻物の入った壺が発見され、調査の結果、巻物は「旧約聖書」の写本断片であることが分かった。「死海文書」と呼ばれたこの写本群は、前2世紀から後1世紀の間に作成されたと考えられており、それまで知られていた「旧約聖書」の最古の写本は西暦1000年頃に作成されたものであったため、その歴史的価値の高さが研究者たちの注目を集めた。その後、パレスチナにおける政治情勢の変化によって調査が遅れたものの、現在ではデジタル技術の発達も相まって写本の公開が進み、また2021年には新たな写本の断片が約60年ぶりに発見されたことから、今後の聖書研究の進展も期待されている。

そもそも「旧約聖書」の「旧約」は、「新約聖書」を教典とするキリスト教側からの呼称であり、ユダヤ教では「タナク(タナハ)」と呼ばれている。これは、「旧約聖書」を構成するトーラー、ネビーム(ネ

このような様々な文書群から成る「旧約聖書」・「新約聖書」は、元来それぞれヘブライ語とギリシア語で記されたが、中世までに西ヨーロッパ共通の学術用語となったラテン語に翻訳された。そのため、聖書の内容はラテン語の知識をもつ聖職者など一部の知識人層のみが読解できるものとなり、一般の人々へは聖書の言葉を通じてその内容を断片的に知るに留まっていた。しかし、中世末から近世初期にかけて聖書のラテン語以外の言語への翻訳活動が進み、また15世紀には、ブドウ搾りの作業をヒントに考案されたGがヨーロッパで新たな技術として普及したことも相まって、聖書は民衆にとってより身近な存在となっていた。

設問1 下線部Hに関連して、西暦1000年頃のヨーロッパで起こった出来事について述べた文として正しいものはどれか。次のア～エから一つ選びなさい。

- ア イシュトヴァーン1世がカトリックを受容し、ローマ教皇によってハンガリー王位を承認された。
- イ ノルマン人のルジューロ2世が、教皇インノケンティウス3世によってシチリア王位を認められた。
- ウ フランスではカロリング朝の断絶に伴ってカペー朝が成立し、地中海沿岸に至る強力な中央集権体制が形成された。
- エ アッティラ王が西ヨーロッパ征服を試みたが、カタラウヌムの戦いでゲルマン人などの軍勢に敗れた。